

## 浦ノ内湾における赤潮発生予測情報 R8-1

### 【概要】

- ・ 令和8年6月1日の環境調査で、カレニア・ミキモトイの細胞密度が1 mLあたり 100 細胞（注意基準値）を超えました。
- ・ これまでの知見から、カレニア・ミキモトイの細胞密度が100 細胞/mLを超えると、その後、2週間以内に漁業被害が強く懸念される1,000 細胞/mL（警戒基準値）に達する傾向があります。
- ・ 現在、湾内の深度5 mにおける水温は24℃台であり、カレニア・ミキモトイが増殖可能な環境にあることから、今後増殖する可能性があります。
- ・ これらのことから、今後当該プランクトンが増殖可能な状況が続けば、6月中旬頃までの間に1,000 細胞/mLに達する可能性が高いと考えられます。
- ・ 海や養殖魚に変化が生じたときは、すみやかに対応できるように十分注意して下さい。

### 【赤潮発生予測について】

- ・ 水産試験場では、過去の浦ノ内湾におけるカレニア・ミキモトイの赤潮発生状況をデータ化し、赤潮発生シナリオを構築しました。
- ・ そのシナリオから赤潮発生予測マニュアルを作成し、令和4年度から予測情報を提供しています。

### 【カレニア・ミキモトイの赤潮発生予測マニュアル（浦ノ内湾）】

- ① 海水中の本種の遺伝子量が増加傾向にあると、その後、赤潮の発生リスクが高い
- ② 調査定点の細胞密度が100 細胞/mLを超えると、2週間以内に本種が1,000 細胞/mL以上まで増殖する可能性が高い  
なお、本種は100 細胞/mLを超えてから、最短2日で赤潮（1,000 細胞/mL）になった事例もありますので、十分注意してください
- ③ 深度5 mの水温が20℃以上になると、本種の赤潮が発生する事例が多い

以上